



## かんきつ類の苗木の植え付け

福井 智大

かんきつ類をはじめとした果樹類は永年性作物であり、一度定植したあとは頻繁に植え替えをすることはありません。最初の植え付け方によってその後の生育に影響がでるため、植え付け作業は丁寧にいき、長く栽培できる樹を作りましょう。

### 1. 植え付けの準備

果樹は、芽が動く前が植え付け適期です。かんきつ類は、春芽が4月ごろに動き始めるので暖かくなっていく3月から4月が植え付け適期になります。

苗木を植え付けるには、直径80～100cm、深さ40～50cmの植え穴を掘ります。この時、掘り上げた土に堆肥10kg、溶リン1kgをよく混ぜ合わせて埋め戻しに利用します。堆肥は、植物繊維が多く土を柔らかくする牛ふん堆肥が適しています。土壌が酸性の場合は必要に応じて苦土石灰も投入し、pHを5.6～6.4に矯正します。

### 2. 1年生苗木の植え付け

1年生苗木は直接ほ場に植えず、一旦、苗木用のほ場や大苗用ポットなど別の場所で翌年まで仮植えします。その際、地上部は、30cmに切り詰めて主幹だけの状態にします。地下部は、根の先端の傷んだ部分を切り返します。畝立てして植え、支柱に紐で固定します。

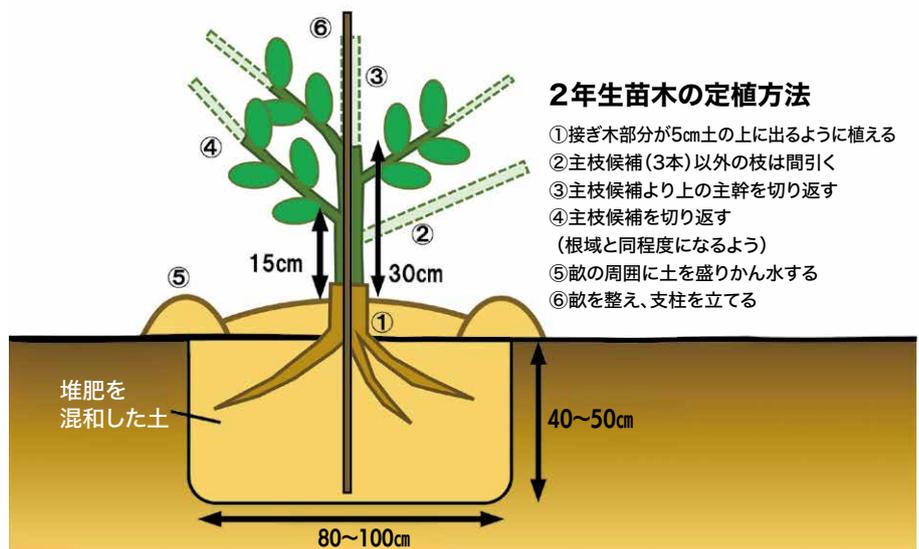
苗木は乾燥に非常に弱いため、かん水を欠かさないように管理しましょう。苗木が枯れてしまい上手く育たない最も大きな原因は水不足による乾燥被害なので注意しましょう。

### 3. 2年生苗木の植え付け

仮植えして大きくなった苗木を、根を切らないように丁寧に掘り返します。3本の主枝を決め、主幹から出ている主枝以外の枝を全て間引きます。また、根が活着するまでは葉からの水分の蒸発を最小限にする必要があります。葉の量が多いと乾燥しやすいので、主枝候補の枝を切り返して葉数を減らします。樹の真下に強く伸びている直根は、果実がなりにくい樹、果実品質の悪い樹の原因になってしまうため、植え付けの段階で根元から切り戻します。その後、丁寧に根を横に広げて土を埋め戻します。

接ぎ木部からは自根が発生しやすく、自根が増えることで果実の品質低下につながります。そのため、接ぎ木部を地表面から5cm程度離して植え付けてください。その後、周囲に盛り土し水鉢を作って大量にかん水します。水鉢にはかん水が足りない場合に雨水を上手く活用することで苗木を乾燥から守る役割があります。

植え付け後は支柱等の棒状のもので盛った土を何度も突き刺して、根の隙間に土と水を入れ込み、根と土を密着させます。樹が沈んでくるので、畝立てし直し、幹がまっすぐになるよう支柱を立て、風でぐらつかないように紐で固定して完了です。固定に使用した紐が苗木の生長に伴って枝に食い込む可能性があるため、枝の成長に合わせて調整してください。乾燥防止、雑草抑制には、根元にワラを敷くことが効果的です。



### 2年生苗木の定植方法

- ①接ぎ木部分が5cm土の上に出るように植える
- ②主枝候補(3本)以外の枝は間引く
- ③主枝候補より上の主幹を切り返す
- ④主枝候補を切り返す  
(根域と同程度になるよう)
- ⑤畝の周囲に土を盛りかん水する
- ⑥畝を整え、支柱を立てる

図 2年生苗木の定植方法